

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 被災学生ミニハウス訪問記 P3
- 黄土高原からのたより P4
- 陝北の村から(その2) P5
- チコロナイ学習会の報告 P6



夏の恒山南面。蒸発量の多い南側ではなかなか木が育たない。

1995・7

38

助成金の配分が決定

～うれしい寄付も～

郵政省国際ボランティア貯金

郵政省国際ボランティア貯金寄付金の配分が、緑の地球ネットワークの黄土高原における緑化協力で95年度も決まりました。大同市南郊区、渾源県北部、大同県、陽高県、天鎮県の部分にたいして総額15,088,000円で、昨年にくらべ20%増額されています。「地球環境林センター」はじめ、18のプロジェクトの推進に大きく役立ちます。国際ボランティア貯金の加入者のみなさんに心から感謝の意を表します。

環境事業団・地球環境基金

環境事業団・地球環境基金の助成が黄土高原における緑化協力で決まりました。今年度は5,500,000円で、渾源県南部、靈丘県、広靈県の山地部分における地球環境林建設、小学校果樹園建設など10プロジェクトに役立てることであります。干ばつがきびしく、生活の困難な地域ですが、地元の人たちはたいへん熱心であり、かならず成果をあげるものと思います。

ボランティアを応援する 社員と企業

～ふれ愛倶楽部と
端数倶楽部～

富士火災海上ふれ愛倶楽部と富士ゼロックス端数倶楽部から、緑の地球ネットワークの活動にたいして、それぞれ150,000円、400,000円の寄付をいただきました。どちらも社員からの善意の寄付にたいして、企業が同額をプラスしてご協力いただいたものです。富士火災ふれ愛倶楽部は昨年、富士ゼロックス端数倶楽部は今年が最初になります。

奈良の緑を楽しむ

自然と親しむ会報告

天気予報はかんばしくないし、立花先生は名にしおう雨男だし、きっと雨に違いないと覚悟していたのですが、ときには雲間から日がさすほどのハイキング日和。自然と親しむ会『立花先生と春日山を歩く』は、35人の参加者を集めました。

えっと、まず、「看板に偽りあり」で、正確には『立花先生と若草山から春日山を望み、奈良公園を歩く』といったところかな。夏の春日山原生林はヒルやダニなんかがついて、林学科の学生も逃げだすところなんだそうです。確かに、若草山から眺めた春日山はこ

んもりとした濃淡さまざまの緑に覆われ、ちょっとした“秘境”のようでした。一見ただけでも20～30種類の樹が数えられる、と先生の解説。対照的にその名のとおり若草に覆われた若草山、そして足元にひろがる奈良の市街地。景色を楽しみ、上空にヒバリの歌を聞きながら、日常の生活空間からほんの1歩で豊かな緑に接することのできるしあわせをかみしめました。

お弁当をすませて、奈良公園を散策。ムクノキとケヤキの見分け方や、鹿が食べない植物など、その場その場で足を止めて説明に聞きいりました。鹿と遊んだり、キノコをみつけたり、子どもたちにも楽しい時間だったようです。また、奈良の鹿愛護会の太田和徳さんには、鹿のお話を聞かせていただきました。

アトピーや花粉症などの“現代病”の原因のひとつは、窒素酸化物の吸入にあると考えられるそうです。その窒素酸化物が充満する都市空間で生活する人びとが健康を保つためには、1週間に2日間、緑の豊かな環境ですごせばいいとか。奈良公園

の緑のなかで立花先生からそんなお話をうかがいながら、「1週間に2日はむりだけど、月に2日ぐらいは森林浴をしようかな」なんて思ったのでした。

黄土高原緑化状況報告会のお知らせ

この夏は7月25日からのワーキングツアーをふくめて4つの団がG E Nの協力地を訪れます。

緑化協力の進行状況やこれからのすめかたについて、94、95年と2年続けて現地を訪ねられた立花吉茂さんのお話を中心に、ワーキングツアーのようすなどもまじえて報告会をおこないます。どうぞご参加ください。

- 日時：9月19日（火）18時30分～
- 場所：アピオ大阪（JR環状線・地下鉄中央線「森の宮」駅歩3分・TEL. 06-941-6332）
- 参加費：700円
- 申込み不要・お問い合わせはG E N 事務所まで（TEL. 06-583-1719）

パソコン通信はじめました

「マックがありながら編集にしか使わないとはもったいない」と思っておられた方にはお待たせしましたが、やっとパソコン通信をはじめました。

IDはHQB01706です。E-MAILでのおたよりや会報の原稿の入稿も大歓迎！



木の下で立花先生の説明に聞きいる



被災学生寮 ミニハウス訪問記



6畳1間のキット1軒を、8人がかりで半日で建てたという

あの阪神淡路大震災から半年が経ちました。震災により発生したガレキの量は推定1327万8千トン、倒壊家屋と一っしょに廃棄された家庭用冷蔵庫から出る大量のフロンガス、大震災による環境への被害が大きいなかにも、多くの人が協力しあって、知恵をしぼり、ユニークな発想で復興に取り組む姿も見られます。間伐材で建てた山小屋風仮設学生寮のこと、新聞で読まれた方も多いのでは？

JR芦屋駅からバスで約10分、丘の上のテニスコートの敷地に20棟のミニハウスが並んでいます。震災で住まいを失った学生のために多くの善意で建てられた地球にやさしいこの学生寮に行ってみました。

寮母の有田さんに案内していただき、集会室（6畳1間のキットをふたつ組み合わせたもの）に入ると、すぐに新しい木の香りが迎えてく



気になる水まわり。これなら快適そう

れました。室内は天井が三角になっているため、思ったより広い印象をうけます。有田さんのお話によると、雨が降っても、木がある程



度湿気を吸ってくれて、風通りもよいせいか、外の気温のわりに涼しく、プレハブにくらべるとずっと住み心地がよいそうです。ただ、震災後に伐った生木でつくったので、乾燥してそってくこともあり、学生たちでグループを組んでメンテナンスに努めているとのこと。仮設寮としての役目が終わっても大学のサークル等で使うクラブハウスにリサイクルされるそうです。

この学生村の誕生は、間伐材を提供した徳島県の8つの森林組合、資材加工に地元の高校生たち、組み立て、ペンキぬりなどに70歳のおじいさんや主婦をふくむ約200名のボランティア、敷地を提供したテニスクラブと計画した大学生活共同組合といった実に広いネットワークとの協力によります。この間伐材の組み立てハウスを考案し、これらのネットワークを結びつけられた慧匠社建築研究所の福家所長にもお話をうかがってみました。

間伐材を積極的に利用する意味については、日本の森林の半分が針葉樹の人工林であり、そのうち60%は間伐が必要なる状態で放置されています。枝のほりすぎた樹木は成長が止まり、地表にあたる光をささざるため、下草が枯れて表土がむきだしとなり、保水力を失う。また、雨が降れば表土流出につながりますます山を荒らすといったぐ



「杉の間伐材の家と聞いて、『花粉症なんですけど大丈夫でしょうか』と尋ねた学生さんもいるんですよ」と話してくれた有田さん

あい、夏場の水不足、河川の生態系の荒廃する原因となっています。

そこで登場したのがこの間伐材をつかったミニハウスです。組み立てはのこぎり、のみ、カンナなどの工具や釘はいっさいつかわずボルト、ナットのみで完成できて、体力と熱意があれば素人でも1週間で建てられるとのこと。価格は6畳ベースのキットで100万円ほどだそうです。

仮設住宅、仮設店舗、仮事務所としての可能性のほかに、きちんと乾燥した材をつかってしっかりとした塗装を



高い天井が室内にゆとりをつくりだす

ほどこせば、被災されたお年寄りなど土地があっても家を再建することが困難な方に安価で木造一戸建ての新築住居を提供できるとまだまだ可能性のあるお話でした。

被災地では、今もなお17000人あまりの人が避難所やテント暮らしをしていると言われていています。このミニハウスのように、ちょっとしたアイデアで、もっと私たちは人や地球にやさしくなれるのかも知れないと感じます。また、この芦屋の学生寮も、ボランティアや技術者、のべ800人の協力で完成したことを思うとき、ネットワークと、やさしい心がいちばん大切な鍵なのかもしれません。（祖谷公子）

黄土高原からのたより

付属果樹園の建設や百葉箱の設置がおこなわれる霊丘県落水河郷三山村小学校の生徒達から手紙が届きました。さすが文字の国、ずいぶんと達筆な子もいてびっくりします。ほんの一部ですが、ここに紹介します。

森林と人類

3年乙班 李双林

森林は大自然の保護者であり、大自然の勇敢な防衛者です。森林は水害や干害などの災害を消滅させることができ、風砂の害をさえぎり、空気をきれいにする力があり、環境を保護します。森林はまた、建築などに不可欠の材料を提供しており、森林と人類の生存は非常に密接な関係があります。

私たちは世界の未来であり、祖国の希望です。私たちは小さいときからたくさん木を植え、たくさん造林しないといけません。小さいときから樹木を愛護し、森林を保護しないといけません。私たちの両手をつかって、環境を美化し、自然を改造するのです。実際行動で人類に貢献しましょう。



95年春、三山村小学校でおこなわれた歓迎会のようす

果樹を植えることで思うこと

4年乙班 馬昇

ことしの3月31日は特別の日です。この日、日本のお客さんたちが私たちの村にやってきて、私たちの学校を參觀します。そして私たちの小学校果樹園のためにお金をだし、私たちの後輩たちが学校に通う経済基礎をつくってくれるのです。この日は私たちの学校で祝賀行事がおこなわれ、「小学校付属果樹園」建設の義務労働にとりくむことになっています。外国のお客さん

たちは、私たちの後輩たちが学校に通えるようにと、大きな関心を寄せてくれます。この日のことを思うだけで、私たちは心から励まされるのです。

小学校に付属果樹園を建設することを聞いたとき、私は将来の「小学校果樹園」のようすを想像しました。私たちの果樹園はきっとたいへんきれいなものになるでしょう。秋になれば、たくさん果実が、どの枝先にもたわわに実るでしょう。リンゴを収穫して売れば、そのお金で学校の条件をよくすることができます。

新しい校舎が建設され、教室は明るくきれいになるでしょう。平屋だけでなく、ビルの教室がつくられ、教室には明るい蛍光灯がとりつけられ、天井板もちゃんとあります。机や椅子も全部、新しく現代的なものに替わります。そしてさらにお金が残ったら、私たちの体育場をつくり、体育用具を買います。いま私たちは運動場を走って、ただ自分で遊ぶだけなのです。

さらに大きな花壇をつくり、運動が終わったあとでそこで本を読みます。新鮮な空気を吸い、きれいな花を楽しみます。そんな環境になったら、私たちは成績はうんとよく

なり、私も大学へ進むかもしれません。(中略)

しばらく空想したあと、また現実にもどります。いま私は、よく勉強し、日に日に向上し、日本のお客さんや両親、村の人たちの期待を裏切らないよう、そして私たちの理想を実現するために努力したいと思います。

その日までもう数日になりました。私はその日におこなう出し物の練習をりっぱにおこない、忘れることができないであろう、その特別の日を迎えたいと思っています。



明るく安全な校舎で勉強させてあげたい

学校見聞

三山小学校 孫笑凡

陽春3月、風と太陽が美しい。

塞外霊丘、三山村。大通りでも横丁でも、学校の中でも外でも、村のいたるところで、老いも若きも男も女もみんな議論しています。日本の友人たちがまもなくこの村にくるというのです。

3月にはいって、私たちの三山小学校はいつになく熱気に包まれています。教師と学生が演出項目をきめ、歌唱指導がおこなわれ、踊りの練習がつづきます。壁が新しく上塗りされ、スローガンが書きなおされます。日本の友人たちが私たちの村にくるのを迎えるためです。

先生たちから話をききました。こんどやってくる日本の友人は、緑の地球ネットワークのメンバーで、環境をよくして人類に幸福をもたらし、そして地球環境を保護するために、太行山脈の緑化、私たちの小学校果樹園建設のために多額の資金を贈ってくれるというのです。それをきいて、私はとくべつにうれしくなり、人に会えばその話をし、人を見ればそのことを話します。はやくその日がやってこないかな。

思想道德の授業のとき、先生はいつも話してくれます。中日両国人民はずっと旧くから友好往来があり、両国の政府が国交を正常化してからでももうずいぶんになります。このたび、日本の友人は私たちの(次ページにつづく)



陝北の村から... その2

深尾 葉子 (大阪外国語大学講師・GEN世話人)

前回、近年の状況について悲観的なことばかりを述べましたが、日常的にそういった不満が語られるわけではなく、むしろふだんは農作業とそして村の中でのおしゃべり、そしてときには市に出向いたり、廟で演じられる劇や結婚式などの行事に出向いたり、と人びとは生活を楽しんでいます。むしろそれは、80年代以降生活が上向いたことと無縁ではありませんが、それにつれて、廟やお祭りも年々華やかさを取り戻しつつあります。

そんななかで、農家のヤオトンに下宿し、生活をともにしながら調査をおこなっているのですが、今回はそこで得たアイデアをひとつご紹介したいと思います。

農家の食事は主として「小米稀飯」というアワ粥と特産のじゃがいもやさつまいもを料理したもので、ときわめてシンプルなものですが、それを食べながらいつも感じるのは、一般に「貧しい」と言われているこうした食事が、身体に大変心地よいことです。これは個人的な体質によるところも大きいかもしれませんが、高カロリー・高蛋白の食事では、食がすまなかつたり、胃がもたれることが多いのに、村に来るといつも食欲が増して、体調がどんどん良くなっていくのです。中国ではこのアワ粥は「養身」といって、消化や吸収が良いため、都市でも病後の人や妊産婦などは、これを食べるといいです。

こうして私も陝北ですっかり「アワ粥」に慣れ親しんでしまい、今回一時帰国の際にも自分用に一袋持ちかえり、

村の人に教えられたとおりに炊いて食べるようになりました。ところが、帰国後報告会をかねて友人たちを自宅に招いた際に、この「アワ粥」をつくってみたところ、これが大好評で、みな口々に「こんなにおいしいとは知らなかった!」と新鮮な発見。考えてみれば、歴史上人間と雑穀類のつきあいはむしろ米よりも長いわけで、人間が長く慣れ親しんできた味だったということでしょうか。むしろそういった雑穀類を主とする食事を「貧しいもの」として省みず、高蛋白、高栄養のものばかりを摂取しようとする現代の食生活のほうが異常なのかもしれません。この日は結局アワ粥の試食会となり、そこにいあわせた人たちで、もっと日本人もアワの価値を見直した方がいいのでは、ということに話は発展しました。

そこで提案ですが、山西省で植林をしていることの往復活動として、現地の食生活をこちらでも紹介してはどうか。これから現地とは長いつきあいをしてゆくのですから、植林ツアー一班もできるだけ、特に村に滞在している間は、村の人が日常的に食べている食事をともにし、自らの食生活を見直すきっかけとしてはどうでしょう。意外に新鮮な発見やおいしさに出会うかもしれません。アメリカでは、健康食品として高額で売られはじめているというこの「アワ」。日本でもいまは、健康食品店が小鳥のエサとしてペット屋さんくらいでしか見かけなくなってしまいました。まずは、手始めにツアー一班が持ちかえった「アワ」で「アワ粥」試食会をやってみては？



黄土高原の生活文化紹介の拠点として日本にヤオトンがつくれたら... (陝北の農家)

ちなみに、5月の世話人会では、私の手料理? で試食済み(ただし、そのときは最後に吹きこぼして、少々失敗でしたが.....)

そしてさらなる「夢」は、黄土高原の生活理解の拠点として、関西地区のどこかに「窑洞」をつくって、GENの研修をしたり、生活文化を体験したりする場所を設けること。これはもちろん夢のまた夢ですが、ツアーで窑洞生活を経験した人には魅力ある話だと思いませんか? 「窑洞」研修所で事前研修やツアーの同窓会をし、オンドルの上に座って、かまどの火で炊いた「アワ粥」を食べる.....。ただ、それにはまず、地震に強く安価な「日本式新型窑洞」を考案しなくてははいけないかも知れませんね。

(前ページよりつづく) 学校に果樹園をつくる資金援助をしてくれました。これはまたわが国政府が対内的に活発化させ、対外開放の政策をとった成果でもあるのではないのでしょうか。

前後を思うと、私の心には激動が訪れます。1人の小学生として私は、よく勉強し、日に日に向上することを決意しました。自分の2本の手をつかって、祖国建設の事業をより高め、反映

させるためにがんばりたいと思います。

けさ友誼の樹を植えれば、明朝には豊かな結実があるでしょう。

中日両国の平和友好が永遠につづくことを祈ります。

チコロナイ学習会の報告

アイヌ語教室の灯～6月 諫早 道子

6月も第2土曜日の午後4時から、チコロナイ学習会が開かれました。第3回です。前回同様15分遅刻してあせった私がG E N事務所のあるビルにかけこみますと、階段の上方から明るくよどみない男性の声が聞こえ、すでに講義がはじまっているもよう。今回のテーマはアイヌ語です。初めての方もふくめて21人が集まり、平石清隆さん手づくりのわかりやすいテキストと楽しいお話のおかげで、とにかくみんながアイヌ語の門前に立ちました。イヤイライケレ（ありがとう）、平石さん。

二風谷アイヌ語教室に何度か参加させてもらった私は、アイヌ語を耳にすると、その優しい響きに重なるいくつもの夜を胸の高鳴りとともに思い出します。満月に近い大きな月が照らしだす雪道を歩いていって暖かい部屋に迎え入れられ、ニール・ゴードン・マンロー氏が撮影したという貴重なビデオをみなさんといっしょに見せていた

いた最初の夜。カムイユカラや歌や踊りにはずむ心の帰り道は雪の中を泳げそうだったシンリムカ文化祭の夜。浜田寛さんのお話を教室で聞き、そのあとご自宅で続きも聞かせていただいた風薫る7月の夜。もちろん昼間も二風谷は美しいのですが、人びとが集まってくるころ、行く手を照らすようにともる教室の灯が私にはとても大切に思えます。

私は学生でも研究者でもありませんが、「民族」ってなんだろうというようなことが気になっていたとき、萱野茂さんの著書『アイヌの碑』に出会い、二風谷を訪ねるようになっていまにいたっています。アイヌ民族の文化を学ぼうとすると、当然、歴史に目を開かれます。和入史を知るにつれ、背中がぐーっと重くなってきたりもします。けれど、この重みからは逃げたらあかん、といつも自分に言いきかせています。民族の歴史の重みは、いまこの私ひとりの重みと同じ質をもっているように思えるからです。

チコロナイ学習会、これからも楽し

みです。アイヌ文化のこと、草木や森のこと、川のことなど、知りたいことがいっぱいあります。まずはみなさん、弁天町 ウン エラマン クス パイエ アン ロー！

(弁天町に勉強しにきませんか！)

共生への第1歩～7月 森山 桂子

長く続いた雨のため、被害が出た地域もあったけど、やっと久しぶりに青空を見て、心地よい気持ちでした。前日は七夕で、ひこ星とお姫は会えたのかなー？なんて思いながら、暑い暑い夏の日差しをうけ、学習会へ...

最初は、リーダーの円満堂さんのゲームからはじまりました。目隠しをして、机の中央においてある全員の時計のなかから、自分のを探し、となりの人にはめてもらうというゲームでした。2回目は、同じ要領でも、しゃべってはいけません。そして、全員が自分の時計をはめおわったことをリーダーに知らせなくてはなりません。1回目は言葉という伝達手段があるので、すんなりといきました。しかし、2回目はどうするか？ 結局、机をバンバ

山西省の自然

石原 忠一
(92年緑化協力団団長)

(3 1) 雨

日本は雨の多い国です。その三つの大水源は、梅雨の長雨と、台風のもってくる大雨と、冬の山間にたくわえた雪どけの水です。

これにくらべて大同など山西省北部、



2時間前までは水1滴もなかったのに (広霊県で・94年夏)

桑干河流域は、年間わずか400mmたらずの雨量です。これも年によってちがいが、例えば渾源県では、年間最最多量、702mm (1959)最少量201mm (1965)といったぐあいで、農作物の豊凶を左右します。

巨大な太平洋の気団がもとで、7・8・9月の3か月で年間総雨量の65%が降り、しかも局地的な大雨をとまることがあります。中国では24時間に50mm以上の降水を「暴雨」と呼びますが、夏季の気流の乱れによる、熱雷や台風くずれの影響で、あの乾いた黄土の上に、突然はげしい雨脚をたたきつけて地表を

洗い、流れる水は、あらゆるものを集めて谷間を下ります。

私は40年ほどまえ、北海道の大雪山の麓で、おりからの真夏の豪雨による、大型の鉄砲水にあい、バスを追いかけられるように流木の壁がせまってくる体験をしましたが、羅漾明さん(1920年生まれ)の体験談によりますと“ロバ隊で荷物を輸んで、谷間の道を進んでいるとき、パツパツと降り出した雨に山の上を見ると、いっぱい雲が降りてくる、親方が「走らないと生命があぶない」と家畜ともども部落のある高台の方に逃げたのですが、すでに雨はどしゃ降り、ものすごい雲がみえるその雲のうしろにかくれて水、まっ黄色い黄土色の水がおし寄せて来た。ちょうど二三階だての建物が前進してるみたいにやってくる.....”

このような出水のことを「発水」と呼ぶそうです。



“時計取り”ゲーム。楽しそうでしょ？

ンとたたいておわりました。なんかおかしいでしょ？ しかし、ゲームの目的である「コミュニケーションをはかる」ということは大成功！ 場がなごみ、みんな、あーだった。こう思った。などと言っていました。

ビデオ鑑賞は、「共生への道」と題し、アイヌ民族が自然とともに生きてきたことを訴えてました。地球上すべてのものにつながりがあり、ともに生きていくこと、もっと考えなくては... 人間も輪のなかに入り、飛び出すので

はなく、調和していかないと、どんどん崩壊していくばかりだと思います。人と人が共生できないと差別がおこり、人と自然が共生しないと、環境破壊になってしまいます。今日のゲームのコミュニケーションは共生への第一歩だと思います。もっといろんな人、いろんなことにかかわってゆきたい気持ちでいっぱいになりました。最後に私の書いた詩を読んでください。

母なる大地（モ・ノ・ラー）
 モ・ノ・ラーの力
 モ・ノ・ラーの暖かさ
 食物を生んでくれる
 水を貯えてくれる
 すべての生き物の母
 みんな忘れずにいようよ
 アスファルトばかり見ると
 伝わってこないの
 みんな忘れずにいようよ
 偉大なる母に
 感謝の気持ち

ごみしているのが私があつかましく出ていこうかと思ったほどです。それは、とても楽しそうで、何も知らない私にもすぐにできそうに思えたからです（実際やってみると奥が深いのですが！）。この時は、残念ながら見るだけにとどまったのですが、この印象が翌年再び二風谷へひきつけたようです。

翌年は踊りとははなれることになったのですが、違う面を知ることができました。東京民族舞踊研究会の平野さんに同行して二風谷へ行ったのですが、平野さんの知人である高野繁廣さん（木彫師）に二風谷を案内してもらいました。そこで、建設中のダムが二風谷の自然をいかに破壊するかを知らされ、本当になさけない思いをしました。

二風谷は沙流川から多くの恵みを受けてアイヌが永々と築いてきたコタンだと聞きます。その沙流川にダムをつくるのがどれほど自然を破壊し、そこに住む人びとの環境を激変させ、ひいては生活をうぼうことになるかを考えないということに腹がたってしかたがありませんでした。沙流川を中心に案内してもらい、その自然の豊かさを教えてもらったばかりなのでこのできごとは強く心に残りました。

さらに翌年、チブサンケに東京民舞研に同行して二風谷へ出かけました。このとき、はじめて二風谷でホリッパを踊りました。どう踊ったかは定かではないのですが、前夜祭の最後に全員で輪になって何度も（いや、長い間つづけてかな...）踊ったのです。そのとき、息子（小学6年）をつれて行ったのですが、ほったらかして踊っていました（なんと、それでも息子は家へ帰ると弟と母親に二風谷でのことを得意そうに話すので、今年は、家族4人で、二風谷ワーキングツアーに参加することになったのです）。この前夜祭でのホリッパは本当に楽しかったです。

はじめは、ほとんど何も知らずに二風谷へ行ったのですが、二風谷へ行くごとに踊りに魅せられ、それを核にして他のこともふくらんできているところです。この二風谷からはじまりふくらみだしたことを大事にしていきたいと思う今日のごろです。

『チコロナイ』ひろがる輪

協力者からのメッセージ

大きな発展を期待

泉 裕

チコロナイの資料を拝見しました。私は個人的に先住民族の伝統文化にひかれ、今秋にはアメリカインディアン の居留地へ行こうと考えている者です。アメリカでは比較的先住民族にたいして国民の関心が高く、国家レベルで対応しているが、日本は閉鎖的ですね。

各個人が知ろうとしなければ知ることのない情報や問題が、あまりにも多く感じます。なぜこういった問題に国民の意識が薄いのか。大きくクローズアップされていなかったこと自体が疑問です。アイヌ民族に限らず、日本国内全てのありとあらゆる差別に関して共通していることですがね.....。

戦後、表面的でしか変えぬ日本国家体制のなかの、もっとどこか大きなところに問題があるのでは.....とも考えています。

とにかく応援しています。これを機にもっと大きな形に発展していくことを期待しています。（後略）

二風谷からはじまった 勝山 明彦

高槻民舞の会に入っている私は、ここ4~5年、アイヌの踊りに魅せられています（高槻民舞の会というのは、日本各地の伝統芸能を学び、学校〔小学校が主〕の教材としたり、自分たちが踊るといようなことをしています）。

先日も、会の発表会があり、私は、クリムセ（弓の舞）を踊りました。

さて、私がアイヌの踊りに魅せられるようになったのは、オキクルミの里二風谷を訪ねたことにはじまります。ぐうぜんだったのですが、アイヌ文化博物館のすぐそばにあるポロチセで東京からきた高校生たちにアイヌの踊りを見せ、いっしょに踊るといところに行きあたったのです。高校生はしり

『チコロナイ』 次回学習会のお知らせ

だんだんとおなじみになってきたチコロナイ学習会ですが、8月は夏休みをいただきます。9月の学習会は次の要領で開催します。

- 日時：9月9日(土) 16時～18時
- 場所：GEN事務所
JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」
- 内容：第2回二風谷ワーキングツアールの報告会
- 参加費：100円+カンパ
- 連絡先：円満堂修治
TEL/FAX. 078-592-8466 (夜9時以降)

お詫びと訂正

前号“『チコロナイ』ひろがる輪”に、編集部によるミスがありました。7P右欄23行目、『知里真志帆の生涯』は、正しくは『知里真志保の生涯』です。お詫びして訂正いたします。

訃報～立野正一さん逝く

緑の地球ネットワークの発足を熱心にバックアップしていただいた立野正一さんが6月6日、逝去されました。京都の四条河原町で喫茶店「フランソア」を経営し、社会運動や文化運動を幅広く支えてこられたかたです。黄土高原における緑化協力の功績者として、93年に中国林学会の会員に推挙されました。俳号の「柏樹子」を家族のかたがそのまま戒名にされました。

立野さんを偲んで、私はこの夏、恒山に「柏樹」(このてがしわ)を植えてきたいと思います。立野さん、ほんとうにごくろうさまでした。安らかにお眠りください。(高見邦雄)



編集後記

いつも使用済みテレカの回収に協力してくれている花園大学人権研究室は、テレカがたまると“ペリカン便”で送ってくださいます。前回のことでした。「配達です」とやってきたおじさんが、包みをためつすがめつして「使用済みテレカなんかどないすんの」。得たり、とばかりにかくかくしかじかと説明したあと、「...おっちゃんもよかったですら集めてもってきて」とあつかましく頼んでしまったのです。そしたらなんと。

「配達です」花園大学からの大きさのわりにはずっしり重い包みといっしょに、おじさんからのテレカの束が。

あのときは忙しくてゆっくりお礼が言えなかったけど、ありがとうね、おっちゃん。でも名前を聞き忘れたので下の欄に書けません。というわけで、テレカなどの協力者のお名前欄外、“ペリカン便のおっちゃん”。おおきに。

(東川)